

知ってさえいれば答えがわかる問題ばかりなら、
なにも難しいことなんてないのに。

— 『凶器は壊れた黒の叫び』(河野裕／新潮文庫 NEX) p.65

☆図書館内コーナー紹介〈新書編〉

「新書」とは縦が約18cmの小型の本のこと(文庫本より一回り大きい)。
内容は、各分野の入門的なもの、諸問題への啓発的なものが多い。
豊高図書館では約1,900冊所蔵。気になる分野がきつとあるはず。
ぜひ読んで教養を深めたり、興味を広げたりしてみよう！
受験対策にも。



新しく入った本から

10代から知っておきたい あなたを閉じこめる「ずるい言葉」
(森山至貴／WAVE 出版)

「あなたのために思って言っているんだよ」

「はっきり言わないあなたが悪い」などなど。

そう言われて納得しかけるけど、何かモヤモヤした気持ちが残ること
ありませんか？そんなモヤモヤの正体をていねいに解説してくれます。

🔍🔍🔍本棚で見つけた！ 🔍🔍🔍

キラキラネームの大研究 (伊東ひとみ／新潮新書)

読み方がわかりにくい個性的な名前。じつは今に始まったことではなく、歴史上の人物たちの名も当時の人には読みにくいものもあったらしい。もともとあった大和言葉(日本語)に中国語である漢字を充てたことによる、日本語の宿命なのだとか。さらに「言霊(ことだま)」にまで考察が進み、キラキラネームを入口に思いがけなく深く日本語論が学べる一冊です。

.....

タイタン (野崎まど／講談社)

人類社会すべてをAI「タイタン」が司る近未来。主人公は〈趣味〉の臨床心理学の実績を買われて、機能不全に陥ったAIのカウンセリングという〈仕事〉をすることになる…。

何もかもをAIとロボットがしてくれる社会には「仕事」も「買い物」も「恋愛」も、その概念が無くなる？みなさんはそんな時代を生きるかも？この小説でシミュレーションしてみてください。